大学入試改革―プレテスト踏まえた授業案

国語　漢文理解、関連文献で話し合い

川妻　篤史
桐蔭学園高校教諭

■漢文のALの流れ

プレテストの第1問から第5問は、複数の資料を比較しながら解答しなければならない設問がある点で共通している。

古典についていえば、こうした設問に対応できる資質・能力を、訳読による講義一辺倒の授業で育成できると期待するのは難しい。「主体的・対話的で深い学び」を実現できるアクティブラーニング（AL）型授業こそがふさわしいと考えている。

私が高校2年の「古典B」（漢文）の授業で実践しているAL型授業は、次のような流れで取り組んでいる。

①読み方の確認
②白文訓読練習
③訓読の疑問点解消
④クイズ形式による内容理解
⑤話し合い学習法（LTD）を用いた学習
⑥書き下し練習
⑦現代語訳作成

①では音読活動を大切にする。

②では漢字と漢字をつなぎ合わせる意識を持ちながら声に出して読むよう指導する。訓読について疑問が生じたところがあれば、それを記録しておくよう指示する。

③では、訓読についての疑問点をグループで出し合い、その疑問を解消していく。

④では、読み取りに必要な事項（指示語・主語・対など）について短問形式で問いながら、内容把握を進めていく。

⑤は、学びを深める単元の山場となるところだ。

⑥と⑦では、あらためて文章を読み返し、内容などを再確認する。

「⑤LTDを用いた学習」では、漢文教材に関わる別の文献を「課題文」として用いて、学びを深めていく。

例えば、道家思想（老子・荘子）の単元では、湯川秀樹『本の中の世界』から「荘子」を課題文として用いる。

ただし、課題文を読む前に「自分の人生を考える上で儒家・道家のいずれの思想を支持するか」と問いを出し、自分なりに考えてみるよう促す。実際の授業では、儒家を支持する生徒たちが多く、「道家は儒家のアンチテーゼ程度のもの」などといった意見が出された。こうした事前ワークを入れると、その後の学びがより深いものとなる。

■ワークは予習、授業は話し合い

LTDを用いた学習は、予習時のワークと授業時のミーティングから構成される。

予習では次のことを課す。課題文を読んだ上で、

（1）言葉の意味を調べる
（2）内容を話題ごとにまとめる
（3）既有の知識と関連付ける
（4）自己と関連付ける
（5）課題文を評価する

これらはワークシートに記入できるようにし、授業時のミーティングで用いる。授業時のミーティングは、50分授業2コマを使い、グループで予習状況を確認するところからスタートする。

1時間目は、予習事項（1）（2）を扱う。（1）では調べてきた言葉の意味をメンバー同士で発表し合い、（2）は話題ごとのまとめをメンバー同士で発表し合う。

2時間目は（3）～（5）を扱う。（3）では漢文教材と課題文との関連付けや、これまで学習してきた知識との関連付けについてグループで話し合う。

ここでは類似点・共通点や相違点・矛盾点に注目するよう促す。（4）では、自分の経験と関連付けることで自分の変化・成長に役立てる。（5）では、課題文を批判的かつ建設的に評価し、より良くする提案も行っていく。

ミーティングは、予習してきた内容をグループ内で共有しながら話し合う活動がベースとなっており、自分の言葉で表現すること、そして発言内容のズレを手がかりに学びを深めていくことを大切にする。

次に示す生徒たちの振り返りを見れば、こうしたAL型授業が主体的・対話的で深い学びにつながるものであると分かる。

「ちゃんと予習をしたことで実のある議論ができた」「疑問が残るような終わり方でよかった」「物理学と漢文、一見違うものがどこか共通点をもっているという考えに共感できた。すべてつながっていると思った」

「実体験が自己との関連付けにはとても有効。LTDは大変ためになった。将来（未来）につなげたい」「文章を批判的に見ることを日々していなかったので、本文の改善点が全然わからなかった」

新テストで求められる資質・能力は何も特別なものではない。新学習指導要領で示された資質・能力の三本柱（知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）をバランスよく育成できれば、問題なく対応できる。主体的・対話的で深い学びが実現できるAL型授業で、こうした資質・能力をバランスよく育成していくことを目指したい。

Webにワークシートを掲載

2．今期の学習到達目標／評価規準（学力の3要素に分けて）

A	B	C	A＝基礎的な知識技能、B＝思考力判断力表現力、C＝主体性多様性協働性
◎	○		①　指定範囲の必修句形・語彙について白文を書き下しに改められる。
	○	◎	②　小テストにてグループ内で協力しあって学習に取り組める。
◎	○		③　教科書本文の漢文を白文で読むことができる。
	◎	○	④　読みについてグループで疑問点を出すことができる。
○	◎		⑤　読みの疑問点について説明することができる。
◎	○		⑥　重要表現（句形・語彙）を含む本文中の漢文を書き下しに改められる。
○	◎		⑦　問いを手がかりに本文の内容を読み解くことができる。
	○	◎	⑧　内容読解について理解していることを人に伝えることができる。
○	◎		⑨　重要表現に配慮しながら各自で現代語訳を作成できる。
○	○	◎	⑩　グループ内で協力し合って最良の現代語訳を作成できる。
	◎	○	⑪　本文に関する課題文を読んで、読みを深めることができる。
◎	○	◎	⑫　LTD 話し合い学習法で協同し合いながら学びを深められる。
○	○	◎	⑬　授業のための事前学習にしっかりと取り組むことができる。
○	○	◎	⑭　毎時間、しっかりと「ふり返り」ができる。

3．使用教材

『漢文学習必携』（京都書房）→小テスト学習用。必ず持参すること。
『古典B漢文編』（筑摩書房）
プリント教材→ファイリングして授業に持参すること。※ノートの準備は不要。

4．授業内容（単元ごと・小テスト）

単元：老子「小国寡民」・荘子「渾沌」　大学入試問題演習

- ✓ 白文訓読練習　（個人→発表）
- ✓ 読みの疑問点解消　（個人→グループ）
- ✓ 「一問一答」による内容把握　（個人／ペア・グループ）
- ✓ 書き下しテスト　（個人）
- ✓ 現代語訳演習　（個人→グループ）
- ✓ LTD 話し合い学習法⇒課題文を読んで理解を深める（個人→グループ）

小テスト：

指定した句形の基本文について、確認する。白文を書き下し文に改める問題。
指定範囲は配付したプリント「漢文学習必携基本句形例文集」「漢文学習必携重要語彙例文集」を参照すること。グループで確認し合う時間を3分間とる。
①グループごとの対抗戦。②2回連続ビリのグループは、特別指導あり。

プレテスト問題（一部掲載）

第5問　次の【文章Ⅰ】は、殷王朝の末期に、周の西伯が呂尚（太公望）と出会った時の話を記したものである。授業でこれを学んだC組は太公望について調べてみることになった。二班は、太公望のことを詠んだ佐藤一斎の漢詩を見つけ、調べたことを【文章Ⅱ】としてまとめた。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。なお、返り点・送り仮名を省いたところがある。

【文章Ⅰ】

呂尚蓋嘗(1)窮困、年老矣。以漁釣奸周西伯。A西伯将出猟卜之。曰「所獲非龍、非彲、非虎、非羆、所獲覇王之輔」。於是周西伯猟(ア)。果遇太公於渭之陽。与語(2)大説曰(イ)「自吾先君太公曰『当有聖人適周。周以興』。B子真是邪。吾太公望子久矣」。故号之曰太公望。載与倶帰、立為師。

（司馬遷『史記』による。）

（注）1　奸――知遇を得ることを求める。
2　太公――ここでは呂尚を指す。
3　渭之陽――渭水の北岸。渭水は、今の陝西省を東に流れて黄河に至る川。
4　吾先君太公――ここでは西伯の亡父を指す（なお諸説がある）。

【文章Ⅱ】

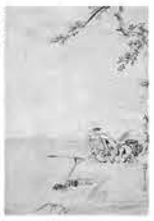
佐藤一斎の「太公垂釣の図」について

平成二十九年十一月十三日
愛日楼高等学校二年C組二班

太公垂釣図　佐藤一斎

謬被文王載得帰
一竿風月与心違
想君牧野鷹揚後
夢在磻渓旧釣磯

不本意にも文王によって周に連れていかれてしまい、釣り竿一本だけの風月という願いとは、異なることになってしまった。想うに、あなたは牧野で武勇知略を示して殷を討伐した後は、磻渓の昔の釣磯を毎夜夢に見ていたことであろう。



狩野探幽画「太公望釣浜図」
日本でも太公望が釣りをする絵画がたくさん描かれました。

幕末の佐藤一斎（一七七二～一八五九）に、太公望（呂尚）のことを詠んだ漢詩があります。太公望は、七十歳を過ぎてから磻渓（渭水のほとり）で文王（西伯）と出会い、周に仕えます。殷との「牧野の戦い」では、軍師として活躍し、周の天下を盤石のものとしました。しかし、その本当の思いは？

C 佐藤一斎の漢詩は、【文章Ⅰ】とは異なる太公望の姿を描きました。

ある説として、この漢詩は佐藤一斎が七十歳を過ぎてから昌平坂学問所（幕府直轄の学校）の教官となり、その時の自分の心境を示しているとも言われています。

〈コラム〉
太公望＝釣り人？
文王との出会いが釣りであったことから、今では釣り人のことを「太公望」と言います。【文章Ⅰ】の、西伯が望んだ人物だったからという由来とは違う意味で使われています。

問5　【文章Ⅱ】に挙げられた佐藤一斎の漢詩に関連した説明として正しいものを、次の①～⑥のうちから、すべて選べ。解答番号は 7 。

① この詩は七言絶句という形式であり、第一、二、四句の末字で押韻している。
② この詩は七言律詩という形式であり、第一句と偶数句末で押韻し、また対句を構成している。
③ この詩は古体詩の七言詩であり、首聯、頷聯、頸聯、尾聯からなっている。
④ この詩のような作品は中国語の訓練を積んだごく一部の知識人しか作ることができず、漢詩は日本人の創作活動の一つにはならなかった。
⑤ この詩のような作品を詠むことができたのは、漢詩を日本独自の文学様式に変化させたからで、日本人は江戸時代末期から漢詩を作るようになった。
⑥ この詩のように優れた作品を日本人が多く残しているのは、古くから日本人が漢詩文に親しみ、自らの教養の基礎としてきたからである。

問6　【文章Ⅱ】の □ で囲まれた〈コラム〉の文中に一箇所誤った箇所がある。その誤った箇所を次のA群の①～③のうちから一つ選び、正しく改めたものを後のB群の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 8 ・ 9 。

A群　8
① 文王との出会いが釣りであった
② 釣り人のことを「太公望」と言います
③ 西伯が望んだ人物だったから

B群　9
① 文王がトいをしている時に出会った
② 文王が釣りをしている時に出会った
③ 釣りによって出世しようとする人のことを「太公望」と言います
④ 釣り場で出会った友のことを「太公望」と言います
⑤ 西伯の先君太公が望んだ人物だったから
⑥ 西伯の先君太公が望んだ子孫だったから

第5問の問題のねらい

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	問題の概要
問5	我が国の言語文化に関する知識・技能	テクストに含まれている情報を統合したり構造化したりして、内容を総合的に解釈し、テクストに対する考えを説明することができる	テクスト全体の内容を踏まえて、漢詩の形式と我が国の言語文化における漢詩文の位置を適切に判断する（当てはまる選択肢を全て選択させる問題）
問6	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）	テクスト全体を通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点を整理することができる	複数のテクスト（文章Ⅰと文章Ⅱ）を比較し、相違点を理解し、適切な情報を整理する

第5回
新学習指導要領と大学入試改革
夏の教育セミナー
主催：日本教育新聞社／株式会社 ナガセ（東進ハイスクール・東進衛星予備校）
この夏8月に、全国12都市で開催！
5年目となる本年はより実践型へ！
昨年8月、全国12会場で「夏の教育セミナー」を開催。約5,000名の先生方にご来場いただきました。今年も大盛況が予想されます。ぜひご参加ください！
予告
全国12都市・会場にて、順次開催いたします。お近くの会場へ、ぜひご参加ください。
開催地・日程
8/1（水）仙台【会場】TKPガーデンシティ仙台
8/2（木）大宮【会場】パレスホテル大宮
8/3（金）東京【会場】ベルサール新宿グランド
8/4（土）札幌【会場】札幌コンベンションセンター
8/6（月）福岡【会場】ヒルトン福岡シーホーク
8/7（火）広島【会場】広島コンベンションホール
8/8（水）横浜【会場】横浜ロイヤルパークホテル
8/9（木）大阪【会場】コングレコンベンションセンター
8/10（金）金沢【会場】ANAクラウンプラザホテル金沢
8/17（金）神戸【会場】ホテルオークラ神戸
8/20（月）千葉【会場】三井ガーデンホテル千葉
8/21（火）名古屋【会場】名古屋観光ホテル
＊プログラム詳細は順次公開いたします。もうしばらくお待ちください。